

磯田 旭 (栃木/96期)

今期は差し脚好調だ。4日制の2月京王閣で初Vをゲットすると、ウィナーズカップでは一次予選、二次予選を連勝するなど地元の大一番で大ブレイク。好位置あるレースは目が離せない。



岡崎 智哉 (大阪/96期)

1月奈良では3連勝で今年の初Vを飾ると、2月高知G3は1②④①着と3連対を果たしていて、自力攻撃が冴え渡っている。ウィナーズカップでも準決に駒を進めるなど存在感を発揮していた。



藤井 侑吾 (愛知/115期)

ここに来て調子を上げている。3月名古屋記念では予選を1、3着でクリアすると、準決は先行して地元同士の高橋和の勝利に貢献した。続く3月向日町は初Vは成らずも1①②着。

ガールズフレッシュクイーン

実績抜けている尾方真生



次代を担うスター選手の登竜門として、デビュー2年未満の選手によって争われる「ガールズフレッシュクイーン」。昨年大会で準Vのリベンジに燃える尾方真生が断然の本命だ。出し惜しみせず早めの巻き返して主導権を奪って勝負するスタイルを確立し、昨年は14V。グランプリ出場も果たした。今年も開催中止が多くて出走回数が少ないが、3月宇都宮でガールズケイリンコレクションに初出場し、ここでもハイペースで逃げて見せ場を作った。実績的に一歩も二歩もリードしており、再びグランプリを目指すためにも勝てるレースは取りこぼせない。他に尾方と積極的に先行勝負を挑みそうな選手は少なく、タيمينグを逃がさず仕掛けて押し切る。

尾方に力に対抗するのは大挙4人が出場する120期勢だ。全員がV実績がある精鋭だが、



中では在所1位の吉川美穂が打倒尾方の最右翼か。競技実績豊富なオールラウンダーで、今年に入って2Vを達成し、ここ2戦もソツのない立ち回りで連続準Vと安定感がある。怪我の影響も徐々になくなっており、前々自力勝負でスピードに乗せ切ってしまう面白さもあるが、スケールの大きさでは3月山原さくらを破って通算2V目を決めた西脇美唯奈だ。念願の大会に出場が決まってモチベーションも上がっているし、まくりがツボにハマればという魅力を感じる。山口真未、太田瑛美はダッシュタイプ。大舞台で思い切りの良さを発揮できるかどうかだろう。

昨年大会と同様に尾方が敗れるなら、尾方の仕掛けに乗っていったってタテ脚を伸ばす選手の逆転となるかも。そうなればキャリアで優る118期勢から永禮美瑠、杉浦菜留の名前が挙がる。勝ちに徹すれば波乱を呼ぶ。

出場予定選手詳細 ※2022年3月24日現在							直近12場所成績		
選手名	所属	身長	年齢	期数	期別	期別	総合評価	逃	追
尾方真生	福久留米	161cm	22	118期	161cm65	170cm65	90	10	0
吉川美穂	和歌山和歌山	167cm	29	120期	167cm62	170cm65	86	13	5
太田瑛美	三重津市	150cm	51	120期	150cm51	163cm63	82	14	0
西脇美唯奈	愛知名古屋	163cm	63	120期	163cm63	151cm61	81	13	1
永禮美瑠	愛知名古屋	151cm	61	118期	151cm61	160cm60	83	14	3
杉浦菜留	愛知豊橋市	160cm	60	118期	160cm60	170cm65	82	14	0
山口真未	静岡伊豆市	170cm	65	120期	170cm65	CSC	84	13	4



競輪とオートレースの売上の一部は、機械工業の振興や社会福祉等に役立てられています。